

証券アナリストによるディスクロージャー優良企業受賞に寄せて

大東建託株式会社 代表取締役 社長執行役員 熊切直美

1. 受賞の感想

このたびはディスクロージャー優良企業に選定される栄誉を頂戴し、誠にありがとうございます。本優良企業選定の趣旨である企業情報開示の促進・向上・充実に微力ながらも貢献できましたのも、多くの証券アナリストの皆さまからのご評価のたまものであり、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。今後とも公平・公正かつ適切な情報開示と積極的対話に努めてまいります。

おかげさまで、今回を含め通算7回目（6年連続）の受賞となりましたが、思えばIR活動が日本に導入されたのは、私がIR部門の責任者としてセルサイドやバイサイドの証券アナリストの皆さまとお目にかかっていた1990年代と記憶しています。その当時から積極的な情報開示を心がけてまいりましたが、当社のIR活動の指針は以下の3点となります。

1点目は、特徴的な株主構成が挙げられます。上場以来、外国人投資家の持ち株比率は35%以上の水準であり、2011年3月期には外国人の持ち株比率は56%と過半数を超え、かつ国内外合わせた機関投資家の比率は80%を突破しました。このような状況の中、いわば必然的に緊張感を持った経営と積極的な情報開示が求められる状況にあったことです。

2点目は、コーポレートガバナンス体制、換言すれば“ガラス張り経営”が挙げられます。企業価値向上のための企業統治指針「コーポレートガバナンス・コード」が示されましたが、当社は73項目全てを適用開始初日である15年6月1日

に開示いたしました。これも創業以来企業内で醸成されてきた企業文化・風土を反映させた“ガラス張り経営”を続けてきた結果であります。

3点目は、明確な経営指標の提示が挙げられます。当社では重要経営指標として「売上高営業利益率7%以上」かつ「ROE（自己資本当期純利益率）20%以上」を掲げております。また株主還元については、配当性向50%+大きな資金需要がない限り自己株式取得・消却30%、「株主総還元性向80%」を実践しております。

2. 当社のIR活動

当社のIR活動は、経営トップによる海外投資家への直接訪問や決算説明会の開催、質疑応答を含めた詳細資料の開示などが挙げられます。またIR担当者を含めた年間200回を超える取材対応など、いずれもフェア・ディスクロージャーを根拠とした当社情報開示姿勢の延長線にあるものです。また年に数回、証券アナリスト向け現場見学会などIRイベントを開催しており、日ごろ直接接点のない“現場の生の声”を聞くことができる機会として好評をいただいております。

3. 証券アナリストに期待すること

「中長期の視点」で当社事業の成長過程を見守っていただければと思います。企業価値の向上は一朝一夕には実現できません。ぜひ“会社の応援団”として、中長期の視点による分析、アドバイスをいただきたいと思います。